

2月12日 6日後 かなり差が出ている



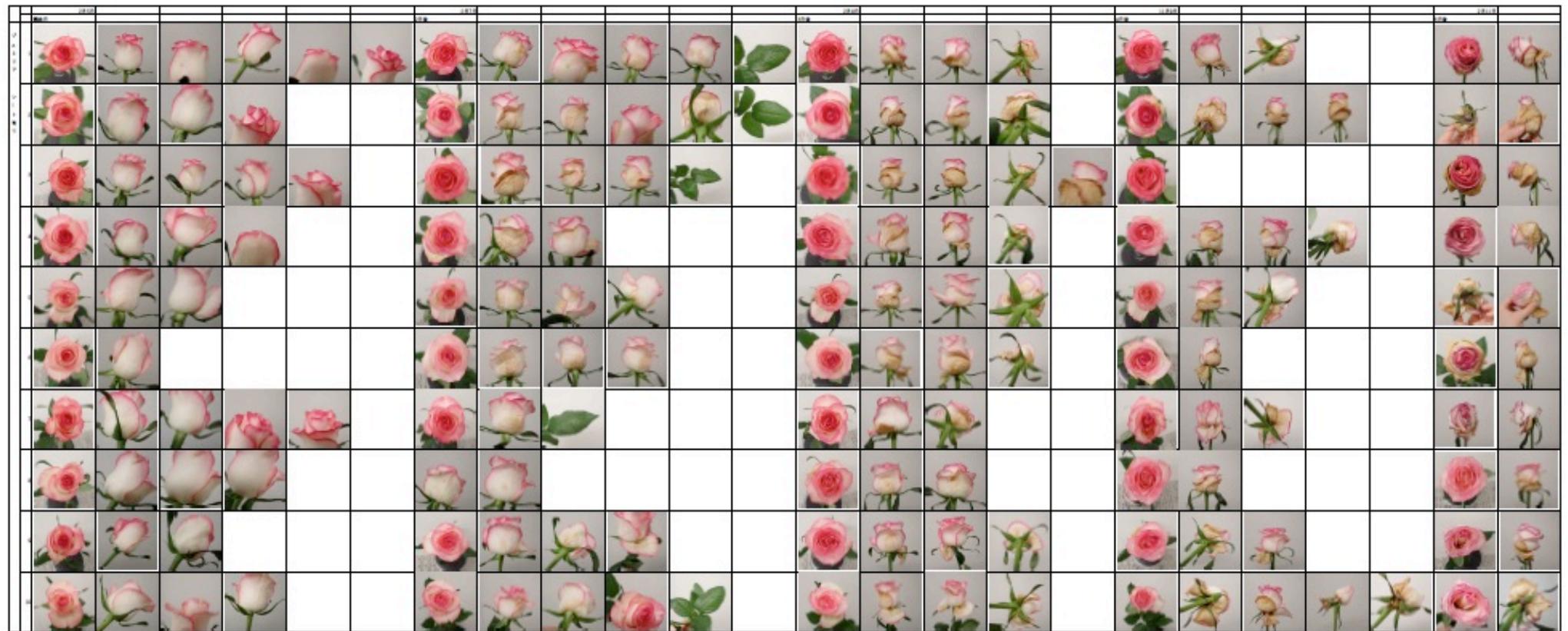
シート有りもカビは発生しているが、無しと比べるとかなりの差がある



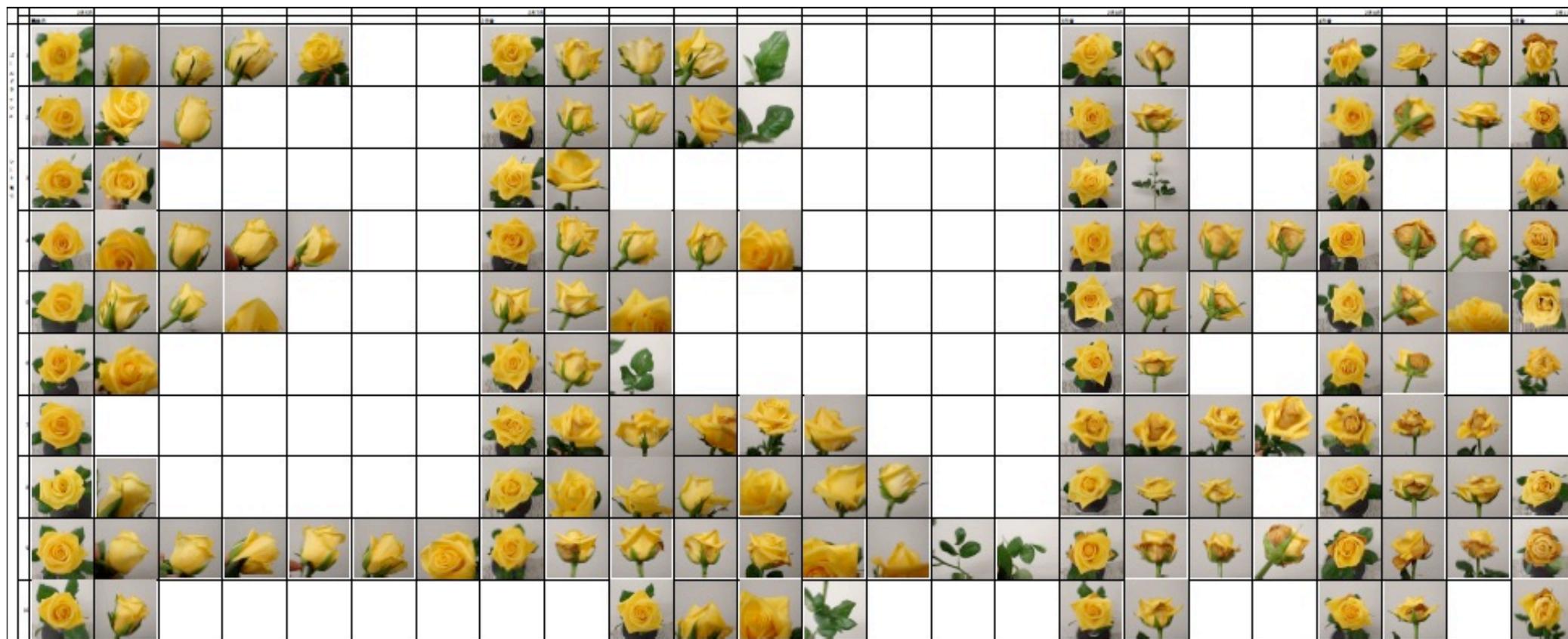
ケース入りはどちらも発生しているが
シート有りの方が花卉が乾いている



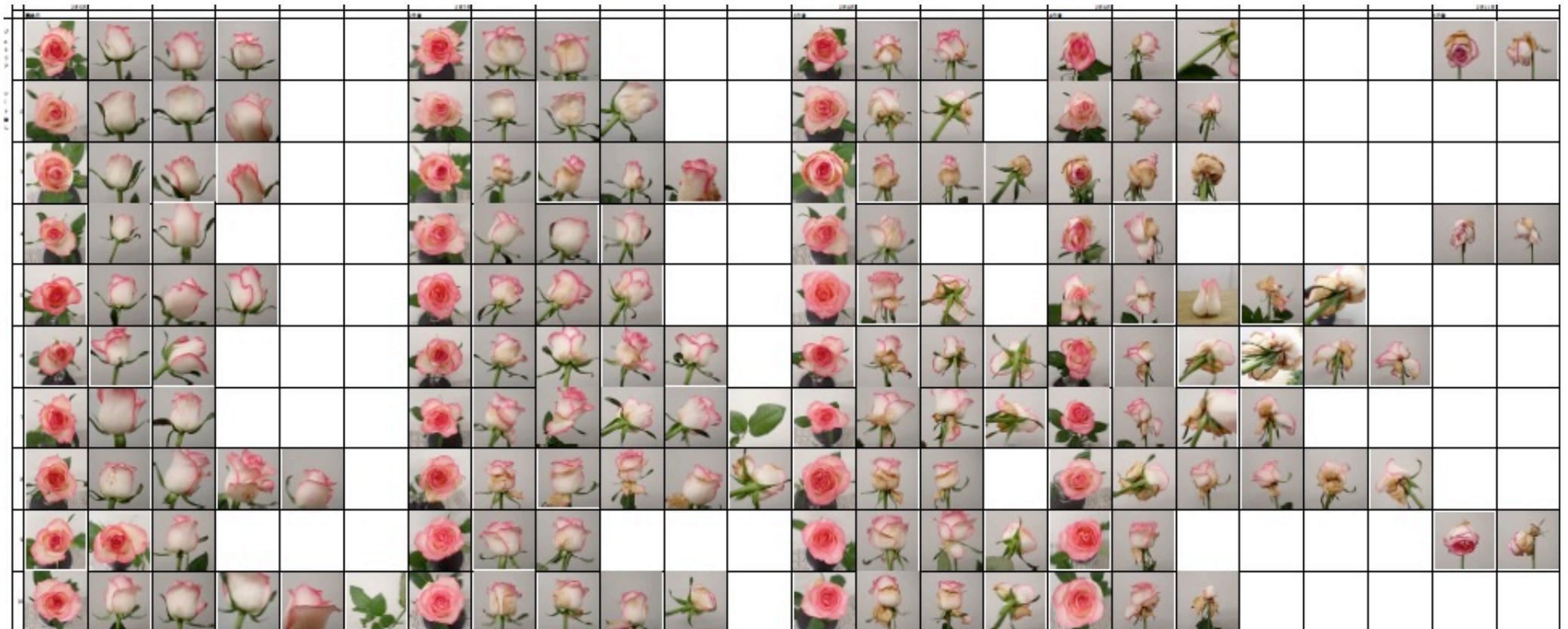
鮮度保持フィルム有り ジュミリア



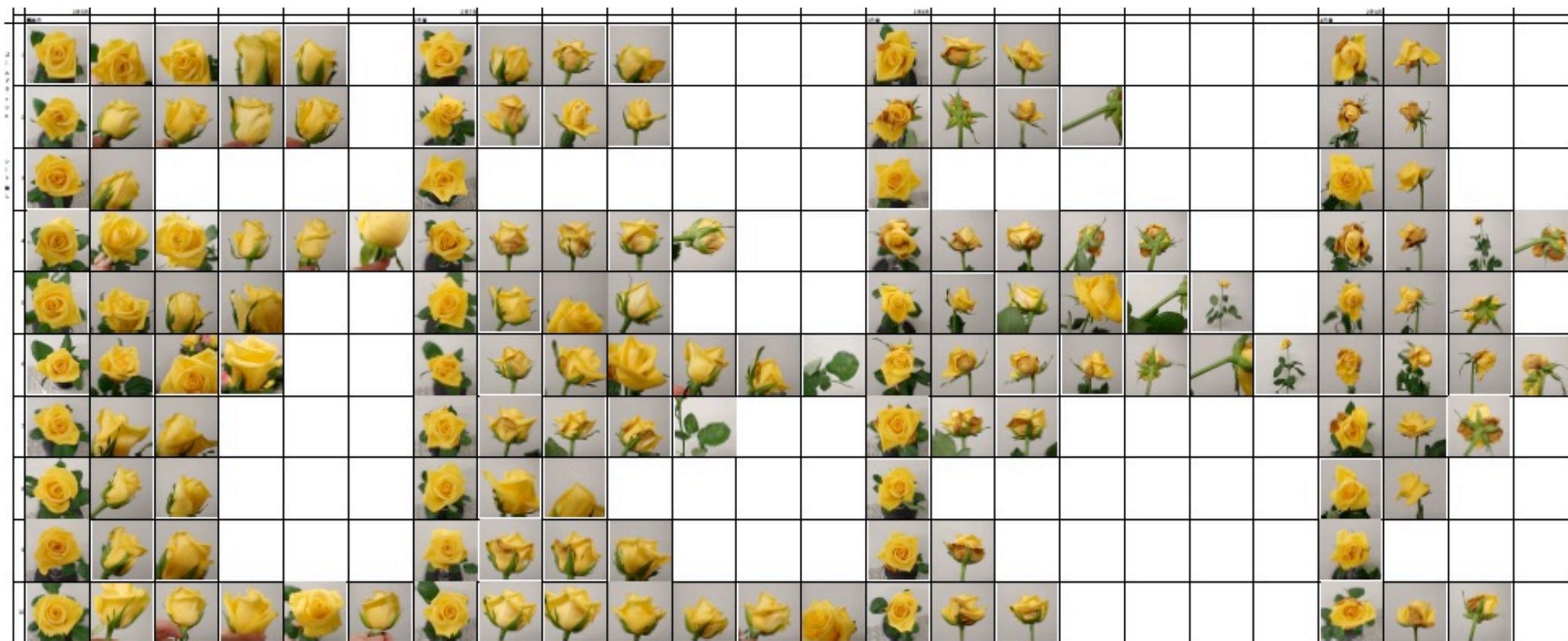
鮮度保持フィルム有り ゴールドドラッシュ



鮮度保持フィルム無し ジュミリア

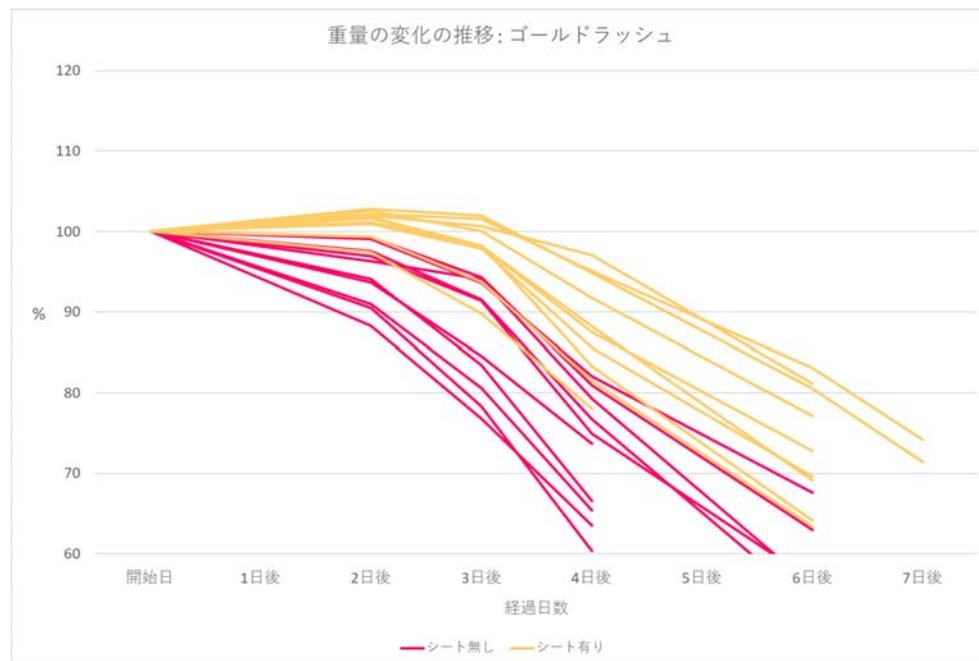
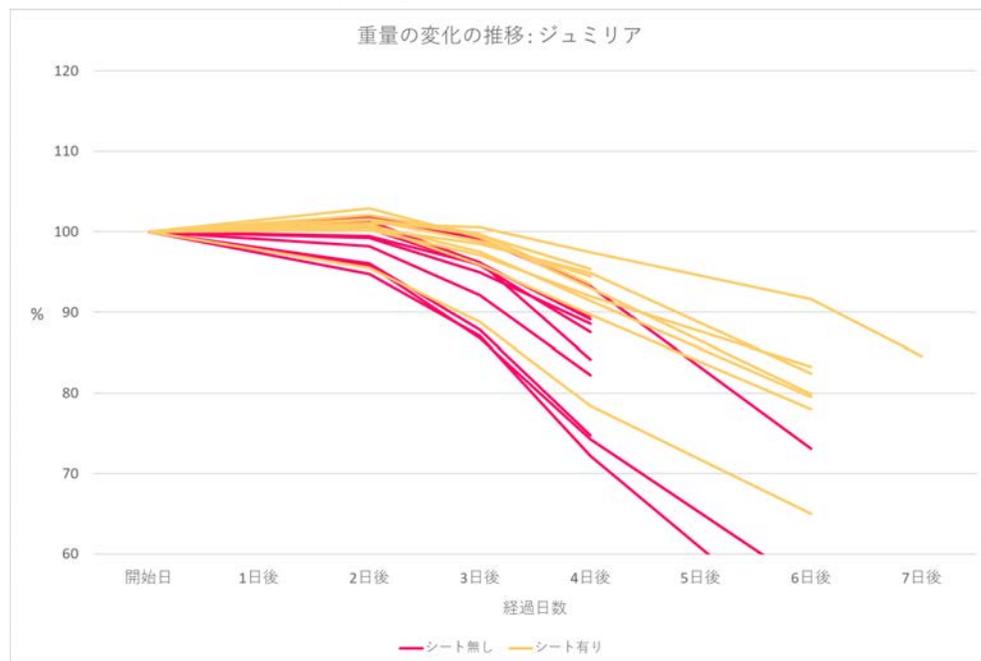


鮮度保持フィルム無し ゴールドラッシュ

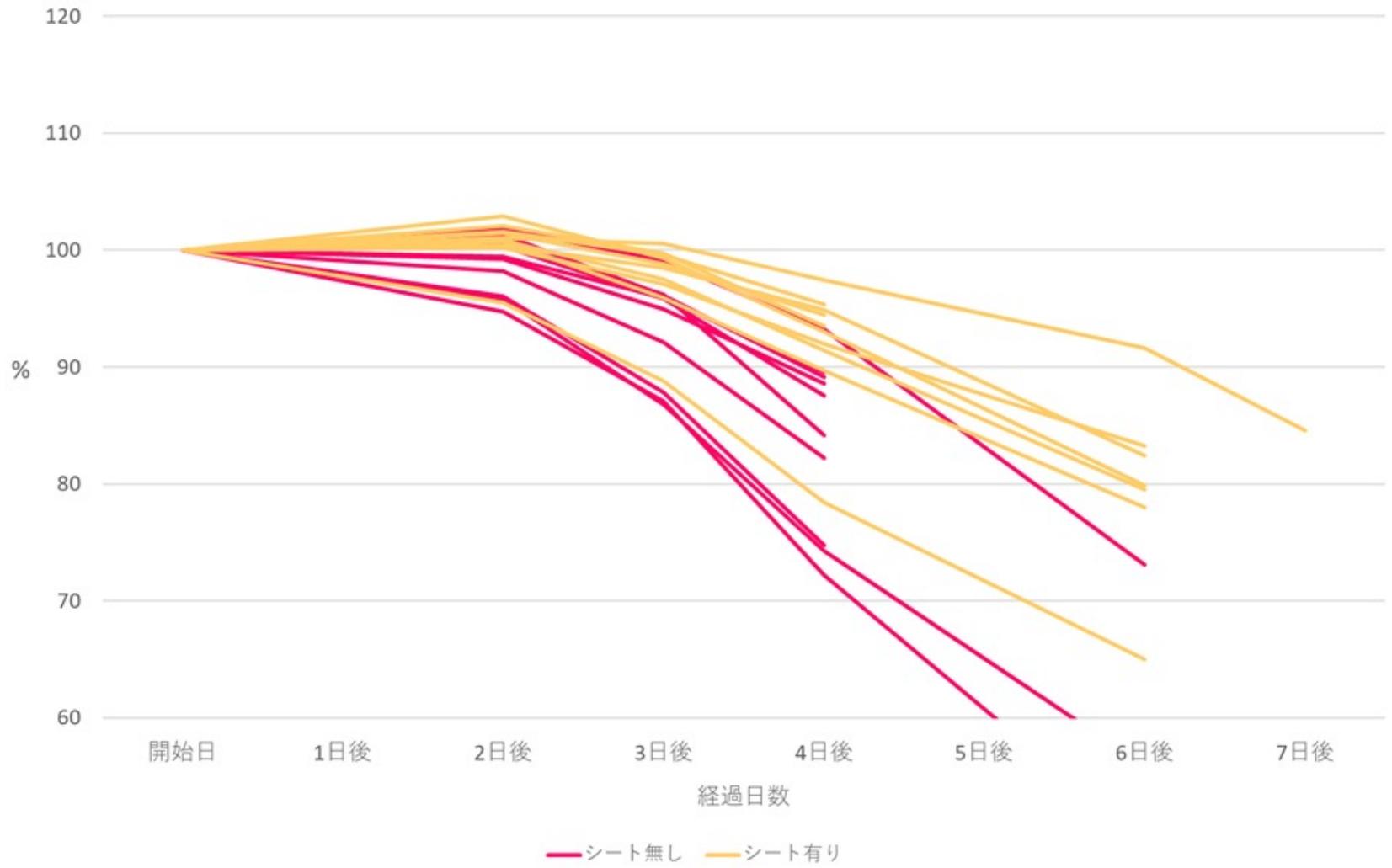


バラ 2月5日-

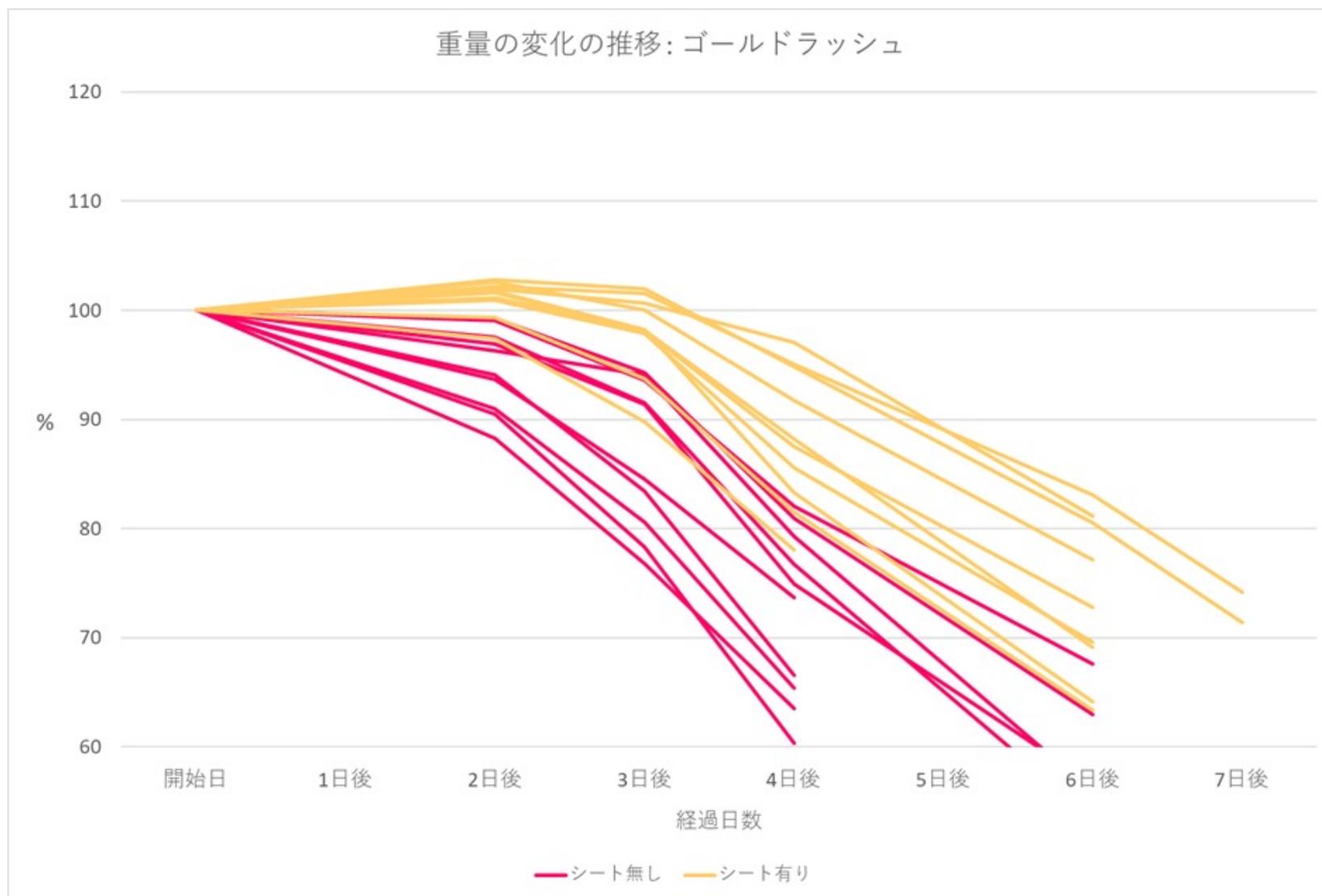
今回はどちらの試験区でも明らかな差が出た。シート有りの方が重量が保持されていた



重量の変化の推移: ジュミリア



重量の変化の推移: ゴールドラッシュ



3回目（2月）の試験でわかった事

- 7月、9月に実施した試験では、見た目・重量どちらもシートの有無による差が無く効果がわからなかった。
- しかし、2月に行った試験では到着時から多くのサンプルで灰カビが発生しており、時間経過とともに花シミの広がり方とシートの効果を確認することができた。
- 重量の推移は、ジュミリア、ゴールドラッシュ共にシート無しのサンプルの半数以上が開始日から減少し、ゴールドラッシュではそれがより顕著に表れた。
- ジュミリアにおいて、無しでは4日後に8本のサンプルで花首が傾いていたのに対し、有りでは0本であった。
- ゴールドラッシュにおいて3日後に無しのサンプル7本で花卉が柔らかくなったのに対し、同日に有りで柔らかくなったサンプルは無かった。
- 灰カビの出やすい時季に実施できたことで効果がわかりやすい形で得られたので良かった。
- 7月・9月はシートの大きさが1/4だったのに対し、2月は1/2に変えたことも効果が得られた要因の一つであると考えられる。これより、シートの大きさを適正に使用することで効果がある事がわかった。

ヒノキチオールテスト

2024-7

2024-9

2025-2

テスト追記

1回目の7月は到着した時点でどちらもかなりひどい状況の為、テストにならなかった。
バラもリシアンサスも同じ状況　すでに発病したカビには効果はないように感じた

2回目の9月のテストでは前回よりも若干　違いが見られたが明確な差がわからなかった。
赤バラの花弁がカビではない変色が見られた。他の品種でもまた、他の産地でも同じ状態になる事が多く

この時期特有の現象かもしれない。今後も調査が必要

今回はどちらもハイカビがあまり出ず、比較的ハウスも輸送状態も良い時期の様だ。

3回目　これまでのテストを鑑み、使用するヒノキチオールのサイズを二倍にしてテストした。

結果、今回は明確な差が出た。とはいえカビを完全に抑制は出来なかった。カビを完全に抑制する事は困難だが、ある程度低減することは可能だと分かった。今後はハウスでの防カビ対策や他の商品とのハイブリット方式も検討し、さらなる灰カビ抑制対策を目指したい。